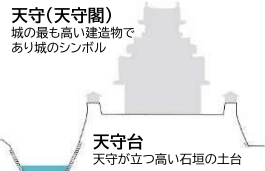


駿府城ってどんな城？



駿府城は、徳川家康公が大きく2回築城したお城です。
1回目は戦国時代末期の天正13(1585)年～天正18(1590)年頃、
2回目は大御所家康公時代の慶長12(1607)年です。

1回目

戦国時代末期(1585年頃)の駿府城

戦国時代末期の駿府城の記録として、天守・小天守の工事の記述がありますが、他の資料が少なくその姿がほとんどわかっていません。

2回目

大御所家康公時代(1607年頃)の駿府城

大御所家康公時代の駿府城天守は、寛永12(1635)年の火災により焼失し、その後再建されず、天守台だけが残りました。

これまでの天守台の経緯

＊宝永地震(1707年)や安政地震(1854年)
寛永12(1635)年の火災以降、残された天守台は、宝永地震や安政地震の影響により、石垣など一部崩壊したとされています。

＊明治29(1896)年
陸軍歩兵第34連隊の誘致のため、天守台が取り壊されて、本丸堀が埋められました。

＊戦後
駿府城の中心部分は、駿府公園として整備され、天守台跡地は駿府会館として利用していました。

＊駿府会館解体後
広場や園路となり、大道芸ワールドカップなどの大規模イベントの会場やヘリポートとして利用されていました。
平成24(2012)年には、公園名を「駿府城公園」と改称しました。



どうして発掘調査をしたの？どんな発見があったの？

発掘調査までの経緯

「駿府公園基本計画・基本設計」に基づき、天守台跡地の整備方針を決定するために、平成28(2016)年から令和3(2021)年までの6年間をかけて、発掘調査を実施しました。発掘調査では、天守台の正確な位置や大きさ、石垣の残存状況等の学術的データを取得しました。

発掘調査の成果

＊貴重な遺構・遺物の発見(歴史的価値の高い場所)
発掘調査では、大御所家康公時代(1607年頃)の天守台、戦国時代末期(1585年頃)の天守台や大量の金箔瓦、今川期の遺構が発見されました。

＊来場者50万人達成(人が集まる場所)
発掘調査現場の常時公開を実施しています。令和3年3月には、来場者50万人を達成しました。



野外展示事業ってどんなことをするの？

ここにしかない貴重な2つの天守台(遺構)の保存活動は継続し、遺構の内側(中に入っても安全に見てもらえる整備を進めていきます。

野外の展示として保存・活用へ

- 遺構の保存活動を継続的に実施したうえで、活用(展示等)を行っていきます。
- 天守・天守台は、資料の調査・研究を継続していきます。
- デジタル技術も活用して、天守・天守台の姿を再現し体験できる展開を目指します。
- 歴史博物館を核として、東御門・翼櫓、天守台跡地、坤櫓、紅葉山庭園等の連携活用を目指します。

野外展示のポイント

- 【ポイント1】 歴史を感じる遺構整備 … 資料2へ
- 【ポイント2】 デジタル技術等を活用したコンテンツの展開 … 資料2へ
- 【ポイント3】 歴史博物館、駿府城公園施設との連携 … 資料3へ

ワークショップ・アンケート調査等の実施

野外展示事業を検討するにあたり、これまで多くの意見聴取の機会を設けました。また、市民との対話やワークショップを実施し、野外展示事業に対するご意見・アイデアをいただいております。



- アンケート 1,300件以上 (令和元年度～、シンポジウム、報告会、市政出前講座にて実施)
- 市民意見交換、ワークショップ 2回(令和3年度)

野外展示事業の整備スケジュール

2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度～ (令和7年度～)
		★ 令和5年1月歴史博物館グランドオープン		
	大河ドラマ館			
基本設計	実施設計	工事	供用開始予定	
		※工事期間中も石垣の保存活動の見える化を検討		
遺構の保存活動の継続実施				

「世界に輝く静岡」の実現のため、400年以上前に徳川家康公が日本を動かし、世界を見据えていたことを象徴し、2つの時代の天守台の重なりを見ることができる、ここにしかない貴重な天守台を、遺構の中に入っても、本物の姿を安全に見てもらえることを第一とした整備を進めていきます。

【ポイント1】 歴史を感じる遺構整備

発掘した2つの時代の天守台(遺構)を後世まで繋いでいく保存活動を継続しながら、本物の石垣の迫力や歴史の雰囲気を感じていただける展示を目指します。

《本物の迫力を感じる展示》

- ◎天守台を眺望できる場所
- ◎本物の石垣を間近に見る場所

《歴史の雰囲気を感じる演出》

- ◎動き続ける現場
- ◎イベント等の場としての活用
- ◎夜間景観

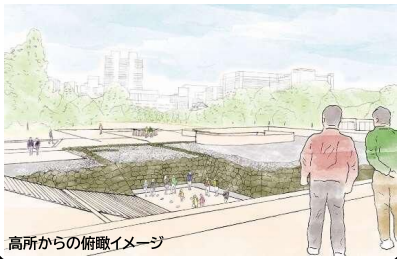
《幅広い層が天守台を学べる仕組み》

- ◎情報発信の拠点
- 発掘情報館(ガイダンス施設)の設置

《本物の迫力を感じる展示》

◎天守台を眺望をできる場所

- *日本最大級の大きさの天守台全体を俯瞰できる場所を設置



高所からの俯瞰イメージ

《幅広い層が天守台を学べる仕組み》

◎情報発信の拠点

- *発掘情報館(ガイダンス施設)を設置
- *映像、AR/VR等体験、天守台のガイドの拠点
- *見学者の休憩スペースの設置
- *キッチンカーやケータリングによる飲食の提供



発掘情報館(ガイダンス施設)



《本物の姿を安全に見てもらえる整備(遺構の中)》

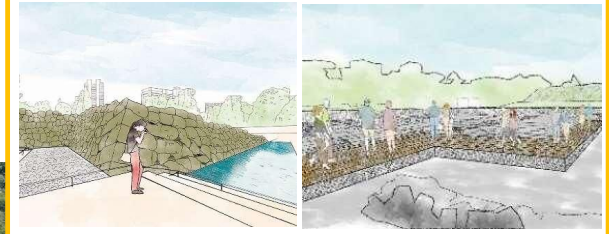
◎動き続ける現場

- *石垣の保存修復作業の継続
- *天守・天守台の調査・研究継続、情報発信の実施



◎本物の石垣を間近に見る場所

- *遺構内部に入り、間近に2つの天守台が見られる「見学園路」の設置



遺構の中の見学園路イメージ

《歴史の雰囲気を感じる演出》

◎イベント等の場としての活用

- *まち劇等イベントが実施できる場の整備



◎夜間景観

- *石垣と堀のある夜景(ライトアップ)を楽しむ



【ポイント2】 デジタル技術等を活用したコンテンツの展開

家康公が見たであろう天守・天守台の姿やその高さから見た景色の再現、デジタル技術やアナログの仕掛けを効果的に活用し、遺構という特別な場でのわかりやすく楽しいイベントの展開を目指します。

《幅広い層が天守台を学べる仕組み》

- ◎天守・天守台の姿をAR/VR等のデジタル技術を活用し、体験できる

《幅広い層が天守台を学べる仕組み》

◎天守・天守台の姿をAR/VR等のデジタル技術を活用し、体験できる

- *天守台の調査情報の展示
- *天守台の情報の案内ガイド(有料化の検討)
- *映像/体験の展開(有料化の検討)

※発掘情報館内だけでなく、屋外での利用も想定



AR/VR等の映像サンプル

【ポイント3】 歴史博物館、駿府城公園施設との連携

歴史博物館を核として、東御門・巽櫓、天守台跡地、坤櫓、紅葉山庭園等の連携活用を目指していきます。

《一体とした連携》

◎巡ることで今川氏、徳川家康公、駿府の地の“すごさ”が感じられる場へ

- *今川氏、徳川家康公、駿府城のPR
- *各施設への誘いや案内表示

◎わたしたちの暮らす土地の記憶を感じることができる場へ

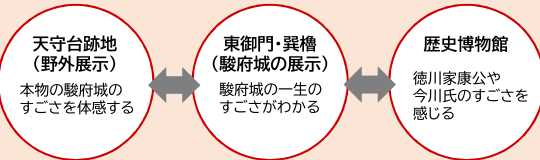
- *歴史博物館と連携したツアーやイベント等の実施

2つの時代の“本物”のすごさが感じられる場



天守台跡地

戦国時代末期(1585年頃)と大御所家康時代(1607年頃)の2つの時代の天守台を同時に見ることができる場所です。



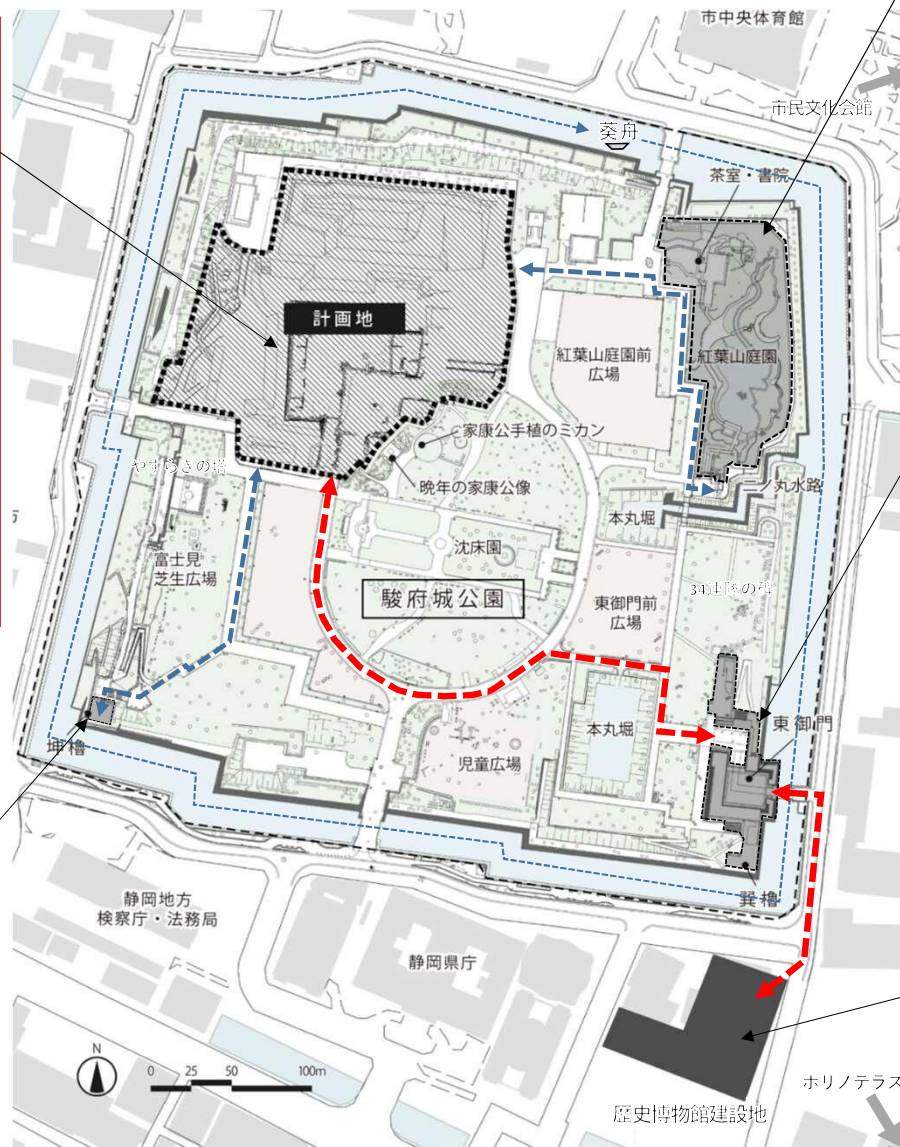
城建築を学び、駿府城に親しむ場



坤櫓

日本の伝統的な木造工法によって建築工事を行い、床下から天井裏まで見ることができ、お城の建築を学ぶことができます。

《歴史博物館と駿府城公園周辺図》



日本庭園やお茶の文化を楽しむ場



駿河国の名勝を織り込んだ4つの庭を中心に、四季折々の表情を実際の風景とともに味わえます。立礼席にてお茶菓子付き呈茶も楽しめます。

駿府城のすごさがわかる場



東御門・巽櫓(駿府城の一生に関する展示)

5W1H形式の問いかけのもと駿府城のプロフィールが学べます。駿府城復元模型や映像による展示など、大人も子供も楽しめる体験展示となっています。

静岡市歴史博物館



《歴史探求》

「駿府」の歴史を語る施設として、駿府在城中の「大御所家康公」をクローズアップし、「大御所家康公と駿府」を紹介する施設です。

《地域学習》

市民活動を支援し、市民が専門家や研究者と一緒に歴史を探究するとともに、地域を学び合う拠点としての役割を担います。

《観光交流》

集客の核となる施設、歴史とまちをつなぐ施設として、活発な交流が行われる機会の創出の一翼を担います。